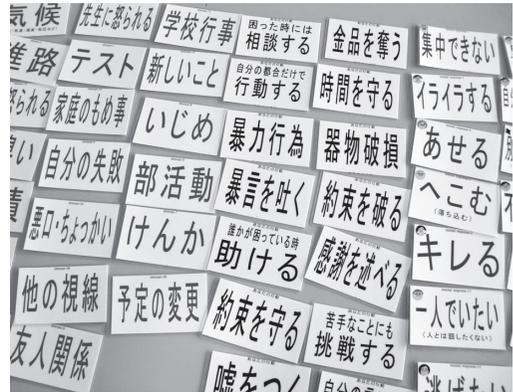
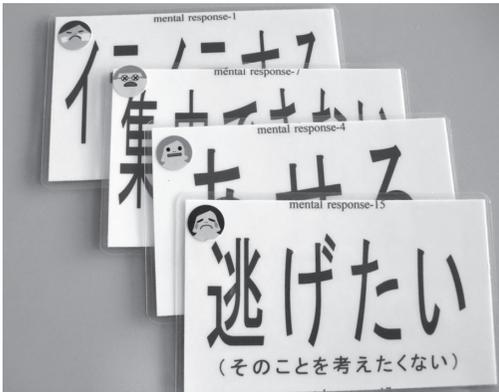


## 4. 会話用アシストカード

子どもの内的な世界を言語化していくステップとして扱いやすいツールです



### ● 会話の端緒を開くために

言葉による自己表現が苦手な子どもたちの話し合いの場面では、子どもたちの気持ちや考えを引き出すことが難しい場合がよくあります。本人も自分の思いをうまく伝えられないことに、さらに焦りや苛立ちを募らせ、時にはパニックに陥ることもあります。

そこで、会話の端緒を開くきっかけとして、写真のようなカードを使用します。カードに記載してあるのは、ストレスの原因、ストレス時の自分の体や心の具体的な反応、ストレスを軽減するための具体的な方法（気分転換）等、用途に合わせてさまざまです。

名刺作成用紙とラミネートフィルムで作ります。感情を表すカードには、市販の表情シールを添付して使用します。内容によって、カードをカテゴリー別に色分けしておく使いやすいです。

話題に関連する言葉の書かれたカードをできるだけ多く提示し、その中から自分の気持ちや考えに近いものを本人に選ばせた

り、指さしさせたりすることから会話を始めます。子どもの内的な世界を言語化していくステップとして、扱いやすいツールです。保護者との面談でも使用できます。

### ● 「言葉で伝えることは大切です」

カードを提示しながら、「ストレスがかかったとき、君の体はどんな反応をするのかな。この中に近いものがあったら選んでください」と話します。しばらく悩んで、<話せなくなる><かゆくなる>を選んで無言で指した子がいました。

「話せなくなるというのは、見ていてわかりましたが…。そうか、君はストレスがかかると、体がかゆくなるんだね。だから、先生の話を聞いているときも、何となくモゾモゾ動いてしまっていたんだね」と言うと、「たいていそれでもっと怒られる…」と答えました。

「でも、これで君は体がかゆくて動いていることが、先生にはわかりましたよ。こうやって言葉で伝えることは、やはり大切ですね」と話していくと、安心したのか、ようやく会話が始まりました。